

95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」、発進



3 月 31 日(日)、宮城県のスポーツランド SUGO にて本年のスーパー耐久シリーズ公式テストが行われ、TEAM SPOON から ST-2 クラスにシリーズエントリーする 95 号車「SPOON リジカラ CIVIC」が、初めて公の場に姿を見せました。

ブルーとイエローの SPOON リバリーに身を包んだ Honda CIVIC TYPE R は、この公式テストの 2 週間前にシェイクダウンしたばかりの新車です。暖かい春の日差しに包まれたこの日のスポーツランド SUGO には、A ドライバーの山田英二、交互に B ドライバーを務める小出峻と三井優介、C ドライバーのピストン西沢が顔を揃え、午前・午後にそれぞれ 1 時間ずつ設けられた走行枠をフルに使ってテストを実施しました。ST-2(排気量 2.4L~3.5L の前輪駆動車または四輪駆動車)クラスは、ST-X(FIA GT3)、ST-4(1.5L~2.5L までの車両)および ST-Q(自動車メーカーの実験車両)の一部と混走するグループ 1 に属しています。なお、前日の 30 日(土)にも S 耐車両向けのスポーツ走行枠が設けられていたため、チームにとっては実質的に二日間の走行テストとなりました。また、24 時間レースとなる第 2 戦富士に合流するドライバーの松井猛敏もオブザーバーとしてテストの行方を見守っていました

テストを終えたチーム監督の原剛は、「シェイクダウンを終えたばかりの新車を持ち込み、この二日間でセットアップを煮詰めていくのが今回のテスト目的でした。二日間ともドライとなり、シェイクダウンとは条件が大きく異なったので、セットアップもやり直しとなっています。今回もトラブルは全くなく、テストメニューを無事にこなすことができました。それでも、3 週間後のレースウィークに向けた課題がいくつか見えてきたので、開幕戦でしっかりパフォーマンスが出せるよう様々トライしてみようと思います。ホンダの育成ドライバーの若手二人も頑張ってくれているし、貴重な情報やインプレッションをあげてくれており、助かっています。山田、ピストンというベテランと、フレッシュな若手の組み合わせは、意外と良いバランスになっていると思いますね。クルマのマイレージとしては、まだ 7~800km でしょうか。まだガレージに戻って作り物を準備したりしないといけませんが、レースに向けては、今のところ順調な滑り出しだと言えるでしょう」と語っています。

A ドライバーの山田は、「テストは順調でした。しかし、速さにつながる(クルマの)前後バランスの煮詰めがまだ足りないと思います。(同じタイプ R で)昨年シーズンからレースを戦っているチームと比べると、仕上がりの差は決して小さくない

いなと感じました。それでもこちらには、まだまだやれるところがたくさん残っているので、伸び代は大きいはず。それでも最低限のタイムや結果は出せていると思いますので、これからが楽しみです。小出くん、三井くんの二人もタイムを削り、クルマを速くしていく作業に貢献してくれています。初めて組んでみましたが、良い方向に働いていると思います。彼らのセンスやクルマのセッティングに対する取り組み姿勢を理解しながら、僕たちもベテランとしての役割を果たし、互いの意見を尊重しながらより良い方向に向かっていけるのでは、と考えています」と語ってくれました。

また、C ドライバーのピストン西沢は、「僕は今日から参加なので、(四人の中で)一番乗れていないんですが、どんどん乗りやすくなっていると感じています。S 耐レースは、最終的にここで磨いた技術をロードカーに活かす、という目的があります。ドライバーにとって優しいクルマとは、例えば炎天下の真夏のレースで1時間半を走った後にバトルをするような場面で、ドライバーの体力を残しておけるわけです。SPOON のチューニングカーは、うるさく固く乗り心地悪いもの、という概念をいつも壊してくれるので、このレースカーの育成においてもとても期待しています。このクルマも持ち込みの段階でそこそこ完成度が高いので、さすが老舗ブランドだなと感心しています。しかし、速さはもちろんのこと、中高速コーナーでの OS 傾向などピーキーな部分は修正や改善が必要です。また、若手のふたりはやはり速いし、僕だけでなく山田もデータをみて刺激を受けています。彼らにとってもこれまで未知の経験ができると思うので、良いチームワークになるのではないのでしょうか。笑顔の絶えない、楽しいチームですよ」とコメントを残しています。

スーパー耐久シリーズ開幕戦 SUGO ラウンドは、4月19日(金)~21日(日)に行われます。